

(社)全日本鍼灸学会

平成 21 年度 第 3 回理事会 会議議事録要旨

I. 開催の日時及び場所

日 時：平成 21 年 10 月 25 日(日) 午前 15 時～午後 17 時

場 所：東京医療専門学校四谷本部校舎（東京都新宿区三栄町 3 番地）

II. 議事の経過要領および結果

司 会：事務局長 福村昭
挨拶：会 長 後藤修司
議 長：会 長 後藤修司

議事に先立ち、後藤修司会長から挨拶があった。

【報告事項】

1. 第 2 回国際シンポジウム決算の件

若山国際部長より資料に基づき、第 2 回国際シンポジウムの収支報告があった。その中で小川副会長より、収支残を決算後に本部会計へ戻すよう要請があった。また WFAS との対応についても併せて経過報告があった。WFAS に対しては、今後も改革項目を訴えていく方向性を理事会として確認した。

2. JLOM 関連委員会報告

山下委員長より、ISO 新 TC に対する活動報告があった。今後の活動を見据え、人材・予算確保の要望があった。後藤会長からは、業団、日理工、学校協会といった他団体にも協力を呼びかけながら、今後 ISO 新 TC に臨んでいきたいとの発言があった。また、山下理事に対し JLOM 関連委員会に対する協力者リストを作成するよう本部から要請した。

3. 第 58 回学術大会(埼玉大会)報告

小侯浩実行委員長より資料に基づき収支の経過報告があった。参加者は 3,205 名で、大会収支については今後確定する旨報告があった。

4. 高木賞報告

北小路学術部長より資料に基づき報告があった。高木賞審査委員会による審査の結果、平成 21 年度高木賞については該当なしとし、奨励賞 3 編を決定した。

5. 第 59 回学術大会（大阪大会）報告

安藤文紀実行委員長より資料に基づき、準備の進捗状況について報告があった。また、前回の理事会にて検討課題となった会員クレジットカード利用による参加費割引については、JCB 担当者よりシステム上できないと連絡があった旨、報告があった。

パネル展示「人物を通して見る日本鍼灸の歴史」については、当日の展示のみでなく学術誌に掲載もすることが賛成多数で承認された。また、ホームページでの掲載や英訳を付加するかは実行委員会でも今後検討することとなった。

6. 監査報告

矢野監事より中間監査報告があった。監査の結果、適正に運用されており、次回は来年 2 月に監査を行う。また、国際シンポジウムについても適正に会計処理されていることが報告された。

7. 常務理事会報告

福村事務局長より午前中に開催された平成 21 年度第 1 回常務理事会について報告があった。

8. 各部事業中間報告(平成 21 年 8 月～10 月)

1)事務局

配布資料により報告した。

2)財務部

配布資料により報告した。

3)組織部

配布資料により報告した。

4)学術部

配布資料により報告した。

5)研究部

配布資料により報告した。

6)編集部

配布資料により報告した。

7)国際部

配布資料により報告した。

8)広報部

配布資料により報告した。

9. 認定委員会事業中間報告(平成21年8月～10月)

配布資料により報告した。

10. 文科省実地検査報告

配布資料により報告した。

【審議事項】

1. 次年度各部事業計画案・予算案の検討

各部部長から平成20年度第1回常務理事会の審議事項を踏まえ、次年度の事業計画案・予算案の説明があった。

1) 事務局

福村事務局長より資料に基づき説明があった。諸会議の日程に関して、定款等改正検討委員会の会議日程については年5回程度のペースで随時決定することとし、臨時理事会を平成22年6月13日に変更する旨の説明があり賛成多数で承認された。それ以外の会議についても、事業計画案通りとすることで賛成多数で承認された。予算案についても原案通り賛成多数で承認された。

また、旅費規程・日程規程については改正案通りとすることで賛成多数で承認された。それに伴い、各部の予算内で委員に対する旅費・日当を予算に計上することで賛成多数で承認された。その他、今後は学術大会や学術集会における講師謝礼金に対する規定を定める事とした。

2) 財務部

小川副会長より、各部からの予算要求に対して予算検討委員会にて検討の上、予算案をたて2月の理事会にて最終決定する旨の説明があった。

3) 組織部

安雲組織部長より説明があった。事業計画案、予算案についてはすべて賛成多数で承認された。

4) 学術部

北小路学術部長より資料に基づき説明があった。卒後教育の一環として研修会「サテライトステップアップセミナー」を第 59 回学術大会から開催する事とし、日曜日の午後を実施する。また、今後の卒後教育の方向性として、認定制度や他団体における研修制度との互換性を図っていくことを確認した。

学術大会演題募集における応募者所属呼称について、他学会にて発表したものを本学会では発表できない原則を周知させた上で、議案の通りとすることが賛成多数で承認された。また、今後「学会」とつくものは所属として認められないことを確認した。

学術大会における学生会員・学生団体等の参加費の取り決めについては、学校教育法に定めるところの学生については全て学生料金で参加できる事とした。但し、発表を希望する場合は正会員登録が必要となり、その後再び学生会員に戻れないものとする（補註：国立視力障害センターも学校教育法に基づく専修学校である）。その他事業計画案については全て賛成多数で承認された。

予算案については卒後教育関連予算として 20 万円を新たに計上し、会議費に委員日当として 6 万円を追加計上し 8 万円とすることで賛成多数で承認された。

5) 研究部

川喜田研究部長より資料に基づき説明があった。データベースについて、アグレックス社と契約することを決定し、メンテナンス費用として年額 100 万を支出する。その他事業計画案についてはすべて賛成多数で承認された。

予算案については原案通り賛成多数で承認された。

6) 編集部

野口編集部長より資料に基づき説明があった。学会誌の印刷について、ライフクリエーションと再契約することが賛成多数で承認された。

独立行政法人科学技術振興機構による Journal@rchiveにおける学会誌 PDF 化作業において、書籍を裁断する必要があり、学会所有の対象書籍については裁断すること、作業に関する対応窓口としては編集部長がその任にあたる事が賛成多数で承認された。また、その他事業計画案についてはすべて賛成多数で承認された。

予算案については原案通り賛成多数で承認された。

7) 国際部

若山国際部長より資料に基づき説明があった。事業計画案については原案通りすべて賛成多数で承認された。

予算案については、WFAS その他海外機関との積極的な対応が必要となっている現状を鑑み、海外渡航費の増額が賛成多数で承認された。

8) 広報部

金井広報部長より資料に基づき説明があった。事業計画案では、小冊子作成については今年度も継続事業とし、海外鍼灸師の見学受け入れボランティア募集については受け入れ先をホームページと学会誌で募集することが賛成多数で承認された。また、会員データベース構築については組織部においてデータベース構築の必要性を洗い出し、引き続きの検討事項とすることで賛成多数で承認された。

予算案については、新たに会議費として 24,000 円を計上し、メールマガジン発行作業費に 4,000 円追加計上して 244,000 円とすることが賛成多数で承認された。

以上、各部事業計画、予算案について審議し、すべて賛成多数で承認された。

2. 平成 22 年度認定委員会事業計画案・予算案の検討

認定委員会事務局長より資料に基づき説明があった。学術大会の DVD 作成を廃止するため、それに代わるものを 12 月の認定委員会において検討することとし、事業計画案についてはすべ

て賛成多数で承認された。また、矢野監事から卒後教育・生涯教育に対する指針をたてる必要性があるのではないかとアドバイスを受けた。

予算案については原案通り賛成多数で承認された。

3. 定款等改正検討委員会について

①入会金及び会費納入に関する規程と定款施行規則の一部改正について資料に基づき安雲組織部長から説明があった。入会金・会費納入について、(社)東洋療法学校協会所属の学校、視覚特別支援学校、学会が指定した鍼灸に関わる大学ならびに教員養成科の学生については、入会金を免除し、会費を1年5,000円とする。但し、従来通り(社)東洋療法学校協会所属の学校については3年間10,000円、鍼灸に関連する大学では4年間12,000円とすることが賛成多数で承認された。

②公益社団法人移行に伴う新定款案

小川副会長から資料に基づき説明があった。改正案を元に今後詳細を検討し、平成24年度の総会時までには新定款案を完成させることが賛成多数で承認された。

4. 理事会推薦役員候補者の件

次期部長候補、理事候補について11月第2週目を目処に候補者を選定することが賛成多数で承認された。

5. 第60回学術大会の内容について

小川副会長より説明があった。会頭は昭和大学医学部第1生理学教室主任教授久光正氏、副会頭に東京有明医療大学理事長櫻井康司氏、社団法人全日本鍼灸学会学術部長北小路博司氏、社団法人日本鍼灸師会会長相馬悦孝氏、社団法人全日本鍼灸マッサージ師会会長杉田久雄氏が就任することが報告された。また「日本鍼灸」をテーマに据え、日本伝統鍼灸学会との共催も視野に入れて検討することや、本部主導の学術大会となるため、実行委員会に学術部・研究部から部員を派遣することが確認され賛成多数で了承された。

以上、各委員会の事業計画、予算案、その他の事項について審議し賛成多数で承認された。

以上をもって平成21年度第3回理事会の議事を全て終了した。